

処理量14年連続減

富士市 可燃ごみの分別が進む

富士市は、平成27年度の市ごみ処理状況の速報値をまとめた。市が処理したごみ総量は7万8780ト。26年度に比べ2044ト(2.5%)減少し、14年連続の減少傾向を示した。焼却量は家庭系、事業系それぞれで減少し、特に、家庭系は過去5年で最大の減量率を記録。衣類の回収方法を拡大し、新たに布団回収を始めたことで、資源物の分別が進んだことが要因とみられる。

ごみ処理総量の内訳は、焼却量が6万77060ト(26年度比20.1ト減)、資源物量は1万14ト(同45ト増)、埋め立て・その他が1706ト(同78ト減)あった。

焼却量のうち、家庭系は1261ト減の4万4171ト。減少率は2.8%を記録した。事業系は654ト(3.4%)減の1万8534ト。収集運搬業者が持ち込む際、搬入検査を月2回実施するなど、指導を強化したことで、分別が進んだ。下水・し尿汚泥は96ト(2.2%)減の4355ト。

量は全体の57.5%を占める43トを記録し、ステーション回収量を上回った。

0トの目標値を掲げている。

一方、古紙類は民間事業者による古紙回収ボックスの充実によって苦戦。市廃棄物対策課では、回収量に応じて地域に報奨金が支払われる「協働型回収制度」の周知を進め、28年度の増加を目指す。

ロゼがイン ターン募集 締め切りは15日

資源物の内訳を見ると、▽布団112ト(皆増)▽その他(電池・コード類・蛍光管)72ト(1ト増)▽小型家電310ト(2ト増)▽容器ブラ1838ト(12ト減)▽廃食用油28ト(6ト増)。

富士市文化振興財団は大学生・短大生を対象としたインターンの参加者を募集している。希望者はウェブサイトに応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入して提出する。

古紙類は27年度、まちづくりセンターなどの公共施設でのステーション回収に加えて、地域の集積所での拠点回収を始めた効果が如実に現れた。拠点回収量は1万680ト。事業系ごみ年間1万680ト。

ごみ処理基本計画では、中間年度の31年までに、家庭系ごみ1人1日当たりの排出量(資源物を除く)470g、資源化率18.0%、家庭系と事業系を加えた1人1日当たりの焼却量640g、事業系ごみ年間1万680ト。

示している。本年度は可燃ごみの4割以上を占めるといわれる生ごみの減量を目指し、「生ごみ水切りキャンペーン」を展開する。

子供向けイベントの運営業務などを予定している。研修は無給とし、交通費や食事代などの補助はない。インターン終了後に1500字程度のレポートを提出する。

希望者はウェブサイトに応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入して提出する。

自販機に放火 現金を盗む 富士署は6日、愛知県名古屋市の内装工の男(20)と富士市の会社員の少年(19)を窃盗の疑いで逮捕した。調べでは、2人は平成27年11月6日午前0

事件・事故